



2016

大学院講義要項

外国語学研究科

言語学専攻

京都産業大学大学院

GRADUATE SCHOOL KYOTO SANGYO UNIVERSITY

■ LL001

科目名	: 一般言語学研究
担当者	: 平塚 徹
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 言語学の伝統的な各分野の基礎知識を得ること
授業内容・方法	: 出席者の希望の研究分野を考慮に入れて、言語学やその関連分野の概説書などの講読を行い、適宜、講義や討論も組み合わせて授業を行う。
授業計画	: 第1回 言語学の各分野の概観 第2回 音声学 第3回 音韻論 第4回 形態論 第5回 統語論 第6回 意味論 第7回 語用論 第8回 文字論 第9回 歴史言語学 第10回 社会言語学 第11回 言語人類学 第12回 心理言語学 第13回 言語習得 第14回 言語起源論 第15回 言語学の各分野の総括
評価方法・基準	: 口頭発表 (50%)、レポート (50%)
教材など	: 適宜指示する。
備考	:

■ LL002

科目名	: 比較言語学研究
担当者	: 北上 光志
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 比較言語学についての基本的な知識と研究方法を学ぶ。
授業内容・方法	: 比較言語学の研究書の精読と解説を通じて、比較言語学の基本的な知識を学習する。そして、それをもとに、具体的な言語分析のための方法を習得する。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 音韻論と比較言語学(1) 第3回 音韻論と比較言語学(2) 第4回 形態論と比較言語学(1) 第5回 形態論と比較言語学(2) 第6回 統語論と比較言語学(1) 第7回 統語論と比較言語学(2) 第8回 テキスト言語学と比較言語学(1) 第9回 テキスト言語学と比較言語学(2) 第10回 学んできたことのまとめ発表 第11回 具体的な言語の分析方法の解説(1) 第12回 具体的な言語の分析方法の解説(2) 第13回 具体的な言語の分析方法の解説(3) 第14回 具体的な言語の分析方法の解説(4) 第15回 言語の分析方法のまとめ
評価方法・基準	: 授業活動(50%)とレポート(50%)で評価する。
教材など	: プリントを配布する。
備考	:

■ LL003

科目名	: 対照言語学研究
担当者	: 今西 利之
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 日本語と各自の専攻語(日本語非母語話者の場合は母語を含む)の仕組みを理解した上で、対照研究の方法を習得する。
授業内容・方法	: 音声・音韻、及び文法(形態・統語)、語彙、意味に関する対照言語学の問題を考える。
授業計画	: 第1回 言語の対照研究の一般理論と分析方法(1) 第2回 言語の対照研究の一般理論と分析方法(2) 第3回 日本語と対照研究の現状 第4回 日本語と対照研究の問題点 第5回 対照研究における母語干渉 第6回 対照研究における誤用分析 第7回 日本語の音声と音韻体系 第8回 日本語と他の言語の音声・音韻体系との対照研究 第9回 日本語と他の言語の音声・音韻体系との対照分析(1) 第10回 日本語と他の言語と音声・音韻体系との対照分析(2) 第11回 言語の対照研究における形態論上の方法と問題 第12回 日本語と他の言語との形態論上の対照研究 第13回 日本語と他の言語との形態論上の対照分析(1) 第14回 日本語と他の言語との形態論上の対照分析(2) 第15回 対照言語学研究の問題・総括
評価方法・基準	: 各自の口頭による発表内容(50%)と、提出されるレポート(50%)で評価する。
教材など	: プリントで配布する。また、必要に応じて授業中に指示する。
備考	:

■ LL004

科目名	: 応用言語学研究
担当者	: 浜田 盛男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 近年の対照言語学研究の知見を概観し、そのような知見を外国語教育にどう生かすか考察する。
授業内容・方法	: 生越直樹編『対照言語学』(2002)を中心に読み進めながら、対照言語学の具体的な研究を知り、基本概念を押さえると同時に外国語教育にどう生かせるかを検討する。
授業計画	: 第1回 言語学と応用言語学 第2回 言語類型論と対照研究(1) 第3回 言語類型論と対照研究(2) 第4回 使役性 第5回 受動性 第6回 連体修飾 第7回 与格構文 第8回 テンス・アスペクト(1) 第9回 テンス・アスペクト(2) 第10回 数量表現(数量詞) 第11回 多義語(空間的用法と時間的用法) 第12回 指示詞 第13回 条件表現 第14回 移動動詞 第15回 振り返りとまとめ
評価方法・基準	: 平常点50%、レポート50%で評価する。
教材など	: 生越直樹編『対照言語学』(2002)東京大学出版会、その他関連論文等随時読み進める。
備考	: 言語学等の科目を含む、これまでの履修状況によっては教材を変更する可能性もある。

■ LL005

科目名	: 語用論研究
担当者	: 平塚 徹
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 含意、前提、発話行為、直示といった語用論における基礎的な概念を理解すること。
授業内容・方法	: テキストを受講生が訳読し、それについて教員が解説を行う。また、それを踏まえて、内容について議論する。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 Introduction (1) 第3回 Introduction (2) 第4回 Implicature (1) 第5回 Implicature (2) 第6回 Implicature (3) 第7回 Presupposition (1) 第8回 Presupposition (2) 第9回 Speech acts (1) 第10回 Speech acts (2) 第11回 Speech acts (3) 第12回 Deixis (1) 第13回 Deixis (2) 第14回 Deixis (3) 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点(発表・議論) 100%
教材など	: Yan Huang, Pragmatics (Oxford Textbooks in Linguistics), Oxford University Press
備考	:

■ LL006

科目名	: 一般言語学セミナー
担当者	: 平塚 徹
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 言語学の様々な方法論についての基礎知識を得ること
授業内容・方法	: 出席者の希望の研究分野を考慮に入れて、言語学やその関連分野の概説書などの講読を行い、適宜、講義や討論も組み合わせて授業を行う。
授業計画	: 第1回 言語学の各方法論の概観 第2回 比較言語学 第3回 言語地理学 第4回 構造言語学 第5回 生成文法 第6回 HPSG・語彙機能文法・役割指示文法 第7回 形式意味論 第8回 関連性理論 第9回 機能言語学 第10回 認知言語学 第11回 対照言語学 第12回 言語類型論 第13回 談話分析 第14回 コーパス言語学 第15回 言語学の各方法論の総括
評価方法・基準	: 口頭発表 (50%)、レポート (50%)
教材など	: 適宜指示する。
備考	:

■ LL007

科目名	: 比較言語学セミナー
担当者	: 北上 光志
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 資料収集と言語分析を行い、研究発表の完成度を高める。
授業内容・方法	: 春学期の比較言語学研究で培った知識をもとに、研究論文の精読と実践的な言語分析を行う。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 比較言語学に関する研究論文の精読 (1) 第3回 比較言語学に関する研究論文の精読 (2) 第4回 比較言語学に関する研究論文の精読 (3) 第5回 比較言語学に関する研究論文の精読 (4) 第6回 比較言語学に関する研究論文の精読 (5) 第7回 比較言語学に関する研究論文の精読 (6) 第8回 比較言語学に関する研究論文の精読 (7) 第9回 比較言語学に関する研究論文の精読 (8) 第10回 精読した研究論文のまとめの発表 第11回 具体的な言語資料の収集とその分析 (1) 第12回 具体的な言語資料の収集とその分析 (2) 第13回 具体的な言語資料の収集とその分析 (3) 第14回 具体的な言語資料の収集とその分析 (4) 第15回 これまでの分析結果の発表
評価方法・基準	: 授業活動 (50%) とレポート (50%) で評価する。
教材など	: プリントを配布する。
備考	:

■ LL008

科目名	: 対照言語学セミナー
担当者	: 今西 利之
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 日本語と各自の専攻語(日本語非母語話者の場合は母語を含む)の仕組みを理解した上で、対照研究の方法を習得する。
授業内容・方法	: 文法(形態・統語)、語用論、語彙、意味に関する対照言語学の問題を考える。
授業計画	: 第1回 言語の対照研究の実践 第2回 言語の対照研究の実践(専攻語との対照の観点から) 第3回 言語の対照研究の実践事例 第4回 言語の対照研究における統語論について 第5回 言語の対照研究における統語論上の方法と問題 第6回 日本語と他の言語との統語論上の対照研究(1) 第7回 日本語と他の言語との統語論上の対照研究(2) 第8回 言語の対照研究における語用論上の方法と問題 第9回 日本語と他の言語との語用論上の対照研究(1) 第10回 日本語と他の言語との語用論上の対照研究(2) 第11回 言語の対照研究における語彙研究、意味研究について 第12回 言語の対照研究における語彙研究、意味研究の方法と問題 第13回 日本語と他の言語との語彙論・意味論上の対照研究(1) 第14回 日本語と他の言語との語彙論・意味論上の対照研究(2) 第15回 文法(形態・統語)、語用論、語彙、意味に関する対照言語学の総括
評価方法・基準	: 各自の口頭による発表内容(50%)と、提出されるレポート(50%)で評価する。
教材など	: プリントで配布する。また、必要に応じて授業中に指示する。
備考	:

■ LL009

科目名	: 応用言語学セミナー
担当者	: 浜田 盛男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 日本語と英語、日本語と学生の母語等の比較対照を通してその主な共通点、相違点を明らかにする。そして、その結果を外国語教育や翻訳にどのように生かせるかより深く理解できるようにする。
授業内容・方法	: 日本語学習者の誤用の検討、翻訳作業、等を通し、日本語と他の言語との共通点、相違点を確認し、外国語教育（教材、クラス活動、評価等）や翻訳にどう生かせるか検討する。また、適宜関連論文を読み理解を深める。
授業計画	: 第1回 概観：言語学と外国語教育・翻訳 第2回 学習者の誤用(1)（音声・音韻） 第3回 学習者の誤用(2)（文構造1） 第4回 学習者の誤用(3)（文構造2） 第5回 学習者の誤用(4)（語彙・意味） 第6回 学習者の誤用(5)（テキスト・談話） 第7回 学習者の誤用(6)（語用論） 第8回 翻訳(1) 第9回 翻訳(2) 第10回 翻訳(3) 第11回 日本語と外国語（履修学生の母語）の対照研究(1) 第12回 日本語と外国語（履修学生の母語）の対照研究(2) 第13回 まとめ：外国語教育・翻訳への応用(1) 第14回 まとめ：外国語教育・翻訳への応用(2) 第15回 振り返りと口頭発表
評価方法・基準	: 平常点・口頭発表 50%、レポート 50%で評価する。
教材など	: 随時、関連論文や資料を提示する。後半は履修生自身が選んだ資料も読み進める。
備考	: 履修生のニーズによって各テーマの取り扱い回数が増減する場合がある。

■ LL010

科目名	: 語用論セミナー
担当者	: 平塚 徹
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 語用論と認知・意味論・統語論との関係について理解すること
授業内容・方法	: テキストを受講生が訳読し、それについて教員が解説を行う。また、それを踏まえて、内容について議論する。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 Pragmatics and cognition (1) 第3回 Pragmatics and cognition (2) 第4回 Pragmatics and cognition (3) 第5回 Pragmatics and semantics (1) 第6回 Pragmatics and semantics (2) 第7回 Pragmatics and semantics (3) 第8回 Pragmatics and syntax (1) 第9回 Pragmatics and syntax (2) 第10回 Pragmatics and syntax (3) 第11回 受講生と協議して語用論の文献を選び、講読し、内容について議論する。(1) 第12回 受講生と協議して語用論の文献を選び、講読し、内容について議論する。(2) 第13回 受講生と協議して語用論の文献を選び、講読し、内容について議論する。(3) 第14回 受講生と協議して語用論の文献を選び、講読し、内容について議論する。(4) 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点(発表・議論) 100%
教材など	: Yan Huang, Pragmatics (Oxford Textbooks in Linguistics), Oxford University Press
備考	:

■ LL011

科目名	: 一般言語学発展セミナー
担当者	: 梶 茂樹
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 一般言語学的観点から個別言語を理解し、自分の研究対象言語をよりよく理解することを目指す。
授業内容・方法	: 毎回ポイントとなる点を話し、その後、具体的言語の例をもとに議論を進める。
授業計画	: 第1回 世界の言語状況(1) 第2回 世界の言語状況(2) 第3回 音声学と音韻論 第4回 音韻論と形態音韻論(1) 第5回 音韻論と形態音韻論(2) 第6回 形態論(1) 第7回 形態論(2) 第8回 形態論(3) 第9回 統語論 第10回 音韻論と統語論のインターフェース(1) 第11回 音韻論と統語論のインターフェース(2) 第12回 意味論 第13回 文献講読(1) 第14回 文献講読(2) 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 授業時の発表 50%、レポート 50%
教材など	: 特にテキストは決めず、必要に応じてプリントを用意する。
備考	:

■ LL012

科目名	: 比較言語学発展セミナー
担当者	: 青木 正博
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 比較言語学の方法論を学ぶ
授業内容・方法	: アントワーン・メイエの『共通スラヴ語』の音論の部を読み、比較言語学の方法論を学ぶ。
授業計画	: 第1回 1. 子音 第2回 1.1. 閉鎖音と破擦音 第3回 1.2. 歯擦音 第4回 1.3. 古い子音鳴音 第5回 2. 母音 第6回 2.1. 古い単母音 第7回 2.2. 古い二重母音 第8回 3. 母音と j の子音への影響 第9回 3.1. 閉鎖後口蓋音 第10回 3.2. 閉鎖歯音と閉鎖唇音 第11回 4. 母音の量 (長さ) 第12回 5. j とシュー音の続く母音への影響 第13回 6. 子音の結合 第14回 7. 語末 第15回 8. アクセント
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート 50%の割合で評価する
教材など	: A.Meillet, Le Slave Commun、Seconde édition、1965、Paris
備考	:

■ LL013

科目名	対照言語学発展セミナー
担当者	小林 満
週時間数	2
単位数	2
配当年次	2年
開講期間	春学期
授業目標	日本語・イタリア語の対照研究をとおして両言語の特徴を明らかにすること。
授業内容・方法	日本の小説・漫画・アニメなどでイタリア語の翻訳や吹き替えがある作品を具体的に対照言語学的に分析していく。それぞれ4回ずつ分析に時間を充てるが、(1)切り口の発見(2)具体的分析(3)批判的検証(4)総括の順に進める。準備するために事前・事後学習が多く要求される。
授業計画	第1回 対照言語学概観 第2回 日本語・イタリア語の対照研究概観 第3回 イタリア語に翻訳された日本の漫画の分析(1) 第4回 イタリア語に翻訳された日本の漫画の分析(2) 第5回 イタリア語に翻訳された日本の漫画の分析(3) 第6回 イタリア語に翻訳された日本の漫画の分析(4) 第7回 イタリア語の吹き替えがある日本のアニメの分析(1) 第8回 イタリア語の吹き替えがある日本のアニメの分析(2) 第9回 イタリア語の吹き替えがある日本のアニメの分析(3) 第10回 イタリア語の吹き替えがある日本のアニメの分析(4) 第11回 イタリア語に翻訳された日本の小説の分析(1) 第12回 イタリア語に翻訳された日本の小説の分析(2) 第13回 イタリア語に翻訳された日本の小説の分析(3) 第14回 イタリア語に翻訳された日本の小説の分析(4) 第15回 まとめ
評価方法・基準	事前学習ノートの内容(50%)とレポート(50%)によって評価する。
教材など	必要に応じてプリント配付
備考	

■ LL014

科目名	: 応用言語学発展セミナー
担当者	: 青木 正博
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 世界の諸言語に存在するいろいろなタイプの所有構文について学び、自分が研究している言語の所有構文の組織がどのようなものであるか考察する。
授業内容・方法	: B. Heine(1997) を講読し、世界の諸言語に存在するいろいろなタイプの所有構文について学ぶ。
授業計画	: 第1回 状態 第2回 序論 第3回 序論 第4回 いくつかの所有概念 第5回 問題点 第6回 過程 第7回 情報源 第8回 文法化 第9回 目標 第10回 図式の再構 第11回 言語内部のヴァリエント 第12回 図式と所有概念 第13回 さらなる論点 第14回 属性所有について 第15回 情報源から目標へ
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート 50%で評価する。
教材など	: B.Heine(1997) Possession: Cognitive sources, forces, and grammaticalization、Cambridge、Cambridge University Press.
備考	:

■ LL015

科目名	: 語用論発展セミナー
担当者	: 北上 光志
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 語用論についての基本的な知識と言語分析の方法を学ぶ。
授業内容・方法	: 語用論の研究書の精読と解説を通じて、語用論の基本的な知識を学習する。そして、それをもとに、具体的な言語分析のための方法を習得する。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 音韻論と語用論 (1) 第3回 音韻論と語用論 (2) 第4回 形態論と語用論 (1) 第5回 形態論と語用論 (2) 第6回 統語論と語用論 (1) 第7回 統語論と語用論 (2) 第8回 テキスト言語学と語用論 (1) 第9回 テキスト言語学と語用論 (2) 第10回 学んできたことのまとめの発表 第11回 具体的な言語の分析方法の解説 (1) 第12回 具体的な言語の分析方法の解説 (2) 第13回 具体的な言語の分析方法の解説 (3) 第14回 具体的な言語の分析方法の解説 (4) 第15回 言語の分析方法のまとめ
評価方法・基準	: 授業活動 (50%) とレポート (50%) で評価する。
教材など	: プリントを配布する。
備考	:

■ LL016

科目名	: 一般言語学特講
担当者	: 梶 茂樹
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 春学期の一般言語学発展セミナーに引き続き、一般言語学的観点から個別言語を理解し、自分の研究対象言語をよりよく理解することを目指す。
授業内容・方法	: 毎回ポイントとなる点を話し、その後、具体的言語の例をもとに議論を進める。
授業計画	: 第1回 序論 第2回 具体的言語資料の分析(1) 第3回 具体的言語資料の分析(2) 第4回 具体的言語資料の分析(3) 第5回 具体的言語資料の分析(4) 第6回 具体的言語資料の分析(5) 第7回 文献講読(1) 第8回 分析結果のまとめ(1) 第9回 具体的言語資料の分析(6) 第10回 具体的言語資料の分析(7) 第11回 具体的言語資料の分析(8) 第12回 具体的言語資料の分析(9) 第13回 具体的言語資料の分析(10) 第14回 文献講読(2) 第15回 分析結果のまとめ(2)
評価方法・基準	: 授業時の発表 50%、レポート 50%
教材など	: 特にテキストは決めず、必要に応じてプリントを用意する。
備考	:

■ LL017

科目名	: 比較言語学特講
担当者	: 青木 正博
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 比較言語学の方法論を学ぶ
授業内容・方法	: アントワーン・メイエの『共通スラヴ語』の形態論の部を読み、比較言語学の方法論を学ぶ。
授業計画	: <ul style="list-style-type: none"> 第1回 1. 子音交替と母音交替 第2回 2. 動詞 第3回 2.1. 動詞の構造 第4回 2.1.1. 現在時制の語幹 第5回 2.1.2. 不定詞、アオリスト、過去時制分詞の語幹 第6回 2.1.3. 現在時制と不定詞の分類 第7回 2.2. アスペクト 第8回 2.3. 動詞の変化 第9回 3. 名詞類 第10回 3.1. 名詞類の語形成 第11回 3.1.1. 語形成の古い方法の部分的保存と除去 第12回 3.1.2. 生産的語形成 第13回 3.2. 名詞類の変化 第14回 3.2.1. 名詞と普通の形容詞の変化 第15回 3.2.2. 代名詞の変化
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート 50%の割合で評価する
教材など	: A.Meillet, Le Slave Commun、Seconde édition、1965、Paris
備考	:

■ LL018

科目名	: 対照言語学特講
担当者	: 小林 満
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 具体的事例をとおして日本語・イタリア語の対照研究の現状を理解する。
授業内容・方法	: 日本語・イタリア語の対照研究のテキストを批判的に読みつつ、自らも関連する事例を研究して発表する。
授業計画	: 第1回 日本語・イタリア語の対照研究史 第2回 音韻体系の対照研究 第3回 オノマトペの対照研究 第4回 親族語彙の対照研究 第5回 色彩語彙の対照研究 第6回 指示形容詞の対照研究 第7回 動詞の対照研究（1） 第8回 動詞の対照研究（2） 第9回 否定接頭辞の対照研究 第10回 文末表現の対照研究 第11回 借用語の対照研究（1） 第12回 借用語の対照研究（2） 第13回 借用語の対照研究（3） 第14回 借用語の対照研究（4） 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 事前学習ノートの内容(50%)とレポート(50%)によって評価する。
教材など	: 古浦敏生『日本語・イタリア語対照研究』（文流）
備考	:

■ LL019

科目名	: 応用言語学特講
担当者	: 青木 正博
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 世界の諸言語に存在するいろいろなタイプの所有構文について学び、自分が研究している言語の所有構文の組織がどのようなものであるか考察する。
授業内容・方法	: B. Heine(1997) を講読し、世界の諸言語に存在するいろいろなタイプの所有構文について学ぶ。
授業計画	: 第1回 特定化 第2回 所有者上昇について 第3回 譲渡不可能性について 第4回 属性所有と述語所有について 第5回 所有からアスペクトへ 第6回 平行性 第7回 明確化所有 第8回 推移のパターン 第9回 存在、所有、場所と他の領域 第10回 評価 第11回 代わりのアプローチ 第12回 出来事の図式 第13回 範疇と普遍性について 第14回 説明について 第15回 結論
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート 50%で評価する。
教材など	: B.Heine(1997) Possession: Cognitive sources, forces, and grammaticalization、Cambridge、Cambridge University Press.
備考	:

■ LL020

科目名	: 語用論特講
担当者	: 北上 光志
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 資料収集と言語分析を行い、研究発表の完成度を上げる。
授業内容・方法	: 春学期の語用論発展セミナーで培った知識をもとに、研究論文の精読と実践的な言語分析を行う。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 語用論に関する研究論文の精読 (1) 第3回 語用論に関する研究論文の精読 (2) 第4回 語用論に関する研究論文の精読 (3) 第5回 語用論に関する研究論文の精読 (4) 第6回 語用論に関する研究論文の精読 (5) 第7回 語用論に関する研究論文の精読 (6) 第8回 語用論に関する研究論文の精読 (7) 第9回 語用論に関する研究論文の精読 (8) 第10回 精読した研究論文のまとめの発表 第11回 資料収集とその分析 (1) 第12回 資料収集とその分析 (2) 第13回 資料収集とその分析 (3) 第14回 資料収集とその分析 (4) 第15回 これまでの分析結果の発表
評価方法・基準	: 授業活動 (50%) とレポート (50%) で評価する。
教材など	: プリントを配布する。
備考	:

■ LL021

科目名	: 日本語特講A
担当者	: 今西 利之
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 現代日本語文法に関する様々な問題の検討を通して、現代日本語の分析と研究の方法論を習得する。
授業内容・方法	: 現代日本語記述文法に関する文献・資料を読みながら、基本的な概念を理解するとともに、問題点について考える。
授業計画	: 第1回 現代日本語文法研究の現在 第2回 文の基本構造、文法カテゴリー、文の成分 第3回 形態論(1) 形態論の基礎、品詞 第4回 形態論(2) 活用 語形成 第5回 格と構文(1) 格と文型 第6回 格と構文(2) さまざまな格 第7回 格と構文(3) 補助動詞構文 第8回 格と構文(4) さまざまな構文 第9回 ヴォイス(1) 受け身 第10回 ヴォイス(2) 使役、その他 第11回 ヴォイス(3) 統語的ヴォイスと語彙的ヴォイス 第12回 アスペクト(1) ~テイル 第13回 アスペクト(2) アスペクトに関わる様々な形式 第14回 アスペクト(3) アスペクトと動詞の分類 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 各自の口頭による発表内容(50%)と、提出されるレポート(50%)で評価する。
教材など	: プリントで配布する。また、必要に応じて授業中に指示する。
備考	:

■ LL022

科目名	: 日本語特講B
担当者	: 今西 利之
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 現代日本語文法に関する様々な問題の検討を通して、現代日本語の分析と研究の方法論を習得する。
授業内容・方法	: 現代日本語記述文法に関する文献・資料を読みながら、基本的な概念を理解するとともに、問題点について考える。
授業計画	: <ul style="list-style-type: none"> 第1回 現代日本語文法研究の現在 第2回 テンス(1) 主節のテンス 第3回 テンス(2) 従属節のテンス(1) 第4回 テンス(3) 従属節のテンス(2) 第5回 モダリティ(1) 表現類型のモダリティ 第6回 モダリティ(2) 評価のモダリティ、認識のモダリティ 第7回 モダリティ(3) 説明のモダリティ、伝達のモダリティ 第8回 主題ととりたて(1) とりたて 第9回 主題ととりたて(2) 「は」と「が」 第10回 主題ととりたて(3) さまざまな主題の表現 第11回 複文(1) 補足節、名詞修飾節 第12回 複文(2) 条件節 時間節 第13回 複文(3) その他の節 第14回 待遇表現 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 各自の口頭による発表内容(50%)と、提出されるレポート(50%)で評価する。
教材など	: プリントで配布する。また、必要に応じて授業中に指示する。
備考	:

■ LL025

科目名	: フランス語特講A
担当者	: 平塚 徹
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: フランス語についてフランス語で書かれた文献を読んで理解できるようになること
授業内容・方法	: テキストを受講生が訳読し、それについて教員が解説を行う。内容についても議論を行う。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 La linguistique : aperçu historique 第3回 Saussure et le cours de linguistique générale 第4回 Ecoles et domaines de la linguistique 第5回 Les concepts fondamentaux de la linguistique structurale 第6回 Eléments de phonétique articulatoire 第7回 Eléments de phonétique acoustique 第8回 L'alphabet phonétique international 第9回 Les classements 第10回 La perspective phonologique 第11回 Les faits prosodiques 第12回 Le mot 第13回 Sémantique du mot 第14回 Lexicographie et pratique du dictionnaire 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点(発表) 100%
教材など	: Introduction à la linguistique française : Tome 1, Paris : Hachette, 2001.
備考	:

■ LL026

科目名	: フランス語特講B
担当者	: 平塚 徹
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: フランス語についてフランス語で書かれた文献を読んで理解できるようになること。
授業内容・方法	: テキストを受講生が訳読し、それについて教員が解説を行う。内容についても議論を行う。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 Le domaine de la syntaxe 第3回 Les principes de l'analyse en constituants immédiats 第4回 Analyse des constituants majeurs de la phrase 第5回 La phrase complexe 第6回 De la phrase au texte : anaphore et progression thématique 第7回 Les situations de communication et le sujet dans la langue 第8回 La langue dans l'espace et le temps 第9回 Des registres de langue aux pratiques linguistiques 第10回 Textes et fonction poétique 第11回 Approches du signifiant 第12回 Approches du signifié 第13回 受講生と協議してテキストを選択する(1) 第14回 受講生と協議してテキストを選択する(2) 第15回 受講生と協議してテキストを選択する(3)
評価方法・基準	: 平常点(発表)100%
教材など	: Introduction à la linguistique française : Tome 2, Paris : Hachette, 2001.
備考	:

■ LL029

科目名	: イタリア語特講A
担当者	: 小林 満
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 古代・中世から現代にいたるイタリア語の歴史を理解すること。
授業内容・方法	: イタリア語で書かれたテキストを読みながら解説を加えていく。
授業計画	: 第1回 ラテン語から俗語へ 第2回 イタリア語の初期資料 第3回 聖フランチェスコ 第4回 シチリア派の詩人たち 第5回 ダンテ (1) 第6回 ダンテ (2) 第7回 ペトラルカ 第8回 15世紀 第9回 言語論争 (1) 第10回 言語論争 (2) 第11回 クルスカ辞典の成立 第12回 啓蒙主義の時代 第13回 国家統一と国語の誕生 第14回 20世紀前半 (ファシズムを中心に) 第15回 20世紀後半のイタリア語
評価方法・基準	: 事前学習ノートの内容 (50%) とレポート (50%) によって評価する。
教材など	: 必要に応じてプリント配付
備考	:

■ LL030

科目名	: イタリア語特講B
担当者	: 小林 満
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: イタリア半島の諸方言の諸側面について理解すること。
授業内容・方法	: イタリア語で書かれたテキストと各方言で書かれた作品を読みながら解説を加えていく。
授業計画	: 第1回 イタリア半島における諸方言の概観 第2回 ヴェネト方言 第3回 ルツァンテの作品を読む 第4回 ミラノ方言 第5回 ポルタの作品を読む 第6回 ボローニャ方言 第7回 ローマ方言 第8回 ベッリの作品を読む 第9回 ナポリ方言 第10回 バジーレの作品を読む 第11回 ナポリ方言のポップスの歴史 第12回 シチリア方言 第13回 シチリア派の作品を読む 第14回 カミッレーリの作品を読む 第15回 サルデーニャ語
評価方法・基準	: 事前学習ノートの内容(50%)とレポート(50%)によって評価する。
教材など	: 必要に応じてプリント配付
備考	:

■ LL031

科目名	: ロシア語特講 A
担当者	: 青木 正博
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: ロシア語の格の意味について理解する。
授業内容・方法	: ロシア科学アカデミー発行 『ロシア語文法』 (1980) の格に関する部分を講読し、検討する。
授業計画	: 第1回 格のカテゴリー 第2回 一般的定義 第3回 格のカテゴリーを示す一連の形式 第4回 『格』という術語のいろいろな意味 第5回 格の形式的表現 第6回 格変化組織による名詞を3つのクラス(格変化タイプ)への分類 第7回 格変化と名詞変化表の特徴づけ 第8回 同じ変化タイプ内での変化形の同音異義 第9回 異なる変化タイプでの変化形の同音異義 第10回 格の意味 第11回 導入のコメント 第12回 語と統語構文との関係における格 第13回 語につく格関係と語につかない格関係 第14回 格の基本的意味 第15回 格の客観的意味
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート 50%の割合で評価する。
教材など	: Русская грамматика. Академия наук СССР, 1980
備考	:

■ LL032

科目名	: ロシア語特講 B
担当者	: 青木 正博
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: ロシア語の格の意味について理解する。
授業内容・方法	: ロシア科学アカデミー発行 『ロシア語文法』 (1980) の格に関する部分を講読し、検討する。
授業計画	: 第1回 格の主観的意味 第2回 格の定語的意味 第3回 格の抽象的意味と具体的意味 第4回 情報的に必要な補足形式としての格 第5回 格の意味の混成 第6回 格の意味が形成される要因 第7回 多くの意味を持つ単位としての格 第8回 格の中心的意思と周辺的意思 第9回 前置詞に支配される格の形式とそれらの意味の特質 第10回 前置詞なしの格 第11回 主格 第12回 生格 第13回 与格 第14回 対格 第15回 造格
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート 50%の割合で評価する。
教材など	: Русская грамматика. Академия наук СССР, 1980
備考	:

■ LL035

科目名	: モンゴル・満州・トルコ語特講A
担当者	: 池田 哲郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: アジアの中のアルタイ語として概説する。
授業内容・方法	: 主に講読とするが、希望により実際のモンゴル語（内外モンゴル）、満州語（エヴェンキ語）、トルコ共和国トルコ語のテキストを講読してもよい。
授業計画	: 第1回 アジア南方の言語の分布について 第2回 アジア北方の言語の分布について 第3回 アルタイ言語学入門 第4回 アルタイの現代語 モンゴル語 第5回 続き 言語文字テキスト紹介 第6回 アルタイの現代語 エヴェンキ語 第7回 続き（満州口語は外した） 第8回 アルタイの現代語 トルコ語 第9回 続き 言語文字テキスト紹介 第10回 続き 言語文字テキスト紹介 第11回 ウラル言語学入門 第12回 日本語の系統、ハンガリー語の系統 第13回 アルタイ語の構造、ウラル語の構造 第14回 言語理論からみたアルタイ語 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点 50% レポート 50% 各回ごとにテーマに見合った課題を与えるので、それぞれ A4(40字 40行)で2枚提出する。
教材など	: 指定しないが、希望に応じる。
備考	:

■ LL036

科目名	: モンゴル・満州・トルコ語特講B
担当者	: 池田 哲郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: アジアの中のアルタイ語として言語資料あるいは文献資料を読む。
授業内容・方法	: 主に講読とする。アルタイの三つの言語の内、ひとつを選択してもよい。
授業計画	: 第1回 アルタイ文献学入門 第2回 モンゴル文献学入門 第3回 西域の漢字音 第4回 漢字音モンゴル語『元朝秘史』 第5回 蒙漢対訳『華夷訳語』 第6回 モンゴル文語のテキストを読む 第7回 続き 第8回 満州文献学入門 第9回 トルコ文献学入門 第10回 突厥トルコ語碑文 第11回 マフムード・アル・カーシュガリー『トルコ詩歌集』 第12回 続き 第13回 オスマン・トルコ語のテキストを読む 第14回 続き 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点 50% レポート 50% 各回ごとにテーマに見合った課題を与えるので、それぞれA4(40字40行)で2枚提出する。
教材など	: 指定しないが、希望に応じる。
備考	:

■ LL037

科目名	: 朝鮮語特講A
担当者	: 朴 真完
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 韓国朝鮮語の初級の学力を養成する。 論文解読・論文作成のための朝鮮語を体系的に学習する。
授業内容・方法	: ハングル（文字）の読み書きや発音の基礎から始め、日常会話表現を通して初級レベルの文法を習得する。作文・読解などに必要な文語表現についても触れる。 文法説明は講義形式で行うが、発音や会話はペアワークで繰り返して練習する。論文解読・論文作成のための読解は、授業中の個人発表を通して重要な表現をチェックし、みんなで反復練習をする。授業内容の理解度を確認するために小テストを頻繁に実施する。
授業計画	: 第1回 文字 第2回 発音の変化 第3回 名詞文 第4回 丁寧(平叙) 第5回 丁寧(疑問) 第6回 尊敬 第7回 基本的な接続語尾 第8回 時制(現在) 第9回 時制(過去) 第10回 使役時制(未来) 第11回 数詞 第12回 助数詞 第13回 助詞の形式と用法 第14回 語尾の形式と用法 第15回 試験とまとめ
評価方法・基準	: 平常点 40%、期末試験 60%
教材など	: 教科書：熊谷明泰 『(初級韓国朝鮮語教材) アリラン』 (朝日出版社、2011) 参考書：油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『朝鮮語辞典』 (小学館、1993) 必要に応じて、プリント教材を配付
備考	:

■ LL038

科目名	: 朝鮮語特講B
担当者	: 朴 真完
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 韓国朝鮮語の初級の学力を養成する。 論文解説・論文作成のための朝鮮語を体系的に学習する。
授業内容・方法	: ハングル（文字）の読み書きや発音の基礎から始め、日常会話表現を通して初級レベルの文法を習得する。作文・読解などに必要な文語表現についても触れる。 文法説明は講義形式で行うが、発音や会話はペアワークで繰り返して練習する。論文解説・論文作成のための読解は、授業中の個人発表を通して重要な表現をチェックし、みんなで反復練習をする。授業内容の理解度を確認するために小テストを頻繁に実施する。
授業計画	: 第1回 命令文 第2回 請誘文 第3回 否定 第4回 禁止 第5回 合成法（複合名詞、複合形容詞、複合動詞） 第6回 派生法（名詞化、形容詞化、動詞化） 第7回 文語表現 第8回 引用 第9回 受け身 第10回 使役 第11回 変則活用 第12回 連体形 第13回 主要な助詞 第14回 主要な語尾 第15回 試験とまとめ
評価方法・基準	: 平常点 40%、期末試験 60%
教材など	: 教科書：熊谷明泰 『(初級韓国朝鮮語教材) アリラン』 (朝日出版社、2011) 参考書：油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『朝鮮語辞典』 (小学館、1993) 必要に応じて、プリント教材を配付
備考	:

■ LL039

科目名	: インドネシア語特講A
担当者	: 左藤 正範
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: インドネシア語の文法書を基に、現在インドネシア語の直面している、幾つかの重要な問題点に関する理解を深めること。
授業内容・方法	: インドネシア語の文法書を基に、現在インドネシア語の直面している、幾つかの重要な問題点に関する分析・検討を行い、受講者との議論を行う。
授業計画	: 第1回 授業の概要と方法に関する説明 第2回 名詞、代名詞、形容詞 第3回 名詞、代名詞、形容詞 第4回 名詞、代名詞、形容詞 第5回 名詞、代名詞、形容詞 第6回 指示詞、数詞、否定詞 第7回 指示詞、数詞、否定詞 第8回 指示詞、数詞、否定詞 第9回 指示詞、数詞、否定詞 第10回 指示詞、数詞、否定詞 第11回 前置詞、接続詞、副詞 第12回 前置詞、接続詞、副詞 第13回 前置詞、接続詞、副詞 第14回 前置詞、接続詞、副詞 第15回 前置詞、接続詞、副詞
評価方法・基準	: レポート50%と平常の受講態度など50%
教材など	: 教科書: Abdul Chaer. 1994. Tata Bahasa Praktis Bahasa Indonesia. Jakarta: Penerbit Bhratara.
備考	:

■ LL040

科目名	: インドネシア語特講B
担当者	: 左藤 正範
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: インドネシア語の文法書を基に、現在インドネシア語の直面している、幾つかの重要な問題点に関する分析・検討を行い、理解を深めること。
授業内容・方法	: インドネシア語の文法書を基に、現在インドネシア語の直面している、幾つかの重要な問題点に関する分析・検討を行い、受講者との議論を行う。
授業計画	: 第1回 授業の概要と方法に関する説明 第2回 疑問詞、間投詞 第3回 疑問詞、間投詞 第4回 疑問詞、間投詞 第5回 疑問詞、間投詞 第6回 接頭辞、接尾辞 第7回 接頭辞、接尾辞 第8回 接頭辞、接尾辞 第9回 接頭辞、接尾辞 第10回 接頭辞、接尾辞 第11回 複合接辞 第12回 複合接辞 第13回 複合接辞 第14回 複合接辞 第15回 複合接辞
評価方法・基準	: レポート50%と平常の受講態度など50%
教材など	: 教科書: Abdul Chaer. 1994. <i>Tata Bahasa Praktis Bahasa Indonesia</i> . Jakarta: Penerbit Bhratara.
備考	:

■ LL041

科目名	: アラブ語特講 A
担当者	: 山本 啓二
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 古典アラビア語の文法を学ぶ。
授業内容・方法	: 英文の文法書を読む。
授業計画	: 第1回 Writing System 第2回 Phonology (1) 第3回 Phonology (2) 第4回 Morphology, Nouns (1) 第5回 Morphology, Nouns (2) 第6回 Morphology, Nouns (3) 第7回 Morphology, Nouns (4) 第8回 Morphology, Nouns (5) 第9回 Morphology, Nouns (6) 第10回 Morphology, Verbs (1) 第11回 Morphology, Verbs (2) 第12回 Morphology, Verbs (3) 第13回 Morphology, Verbs (4) 第14回 Morphology, Verbs (5) 第15回 Morphology, Verbs (6)
評価方法・基準	: 平常点(100%)による。
教材など	: W. Fischer, <i>A Grammar of Classical Arabic</i> , New Haven, 2002.
備考	:

■ LL042

科目名	: アラブ語特講 B
担当者	: 山本 啓二
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 古典アラビア語の文法を学ぶ。
授業内容・方法	: 英文の文法書を読む。
授業計画	: 第1回 Morphology, Pronouns 第2回 Morphology, Particles (1) 第3回 Morphology, Particles (2) 第4回 Morphology, Particles (3) 第5回 Morphology, Particles (4) 第6回 Morphology, Particles (5) 第7回 Morphology, Particles (6) 第8回 Syntax (1) 第9回 Syntax (2) 第10回 Syntax (3) 第11回 Syntax (4) 第12回 Syntax (5) 第13回 Syntax (6) 第14回 Syntax (7) 第15回 Syntax (8)
評価方法・基準	: 平常点(100%)による。
教材など	: W. Fischer, <i>A Grammar of Classical Arabic</i> , New Haven, 2002.
備考	:

■ LE035・LC031・LL043

科目名	: 研究指導1・2
担当者	: 研究指導教員
週時間数	: 2
単位数	: 4
配当年次	: 2年
開講期間	: 通年
授業目標	: 春学期：修士論文または特定課題研究成果報告書の作成に向けて必要な文献の収集と精査、研究計画の立案等を行う。 秋学期：修士論文または特定課題研究成果報告書の完成に向けて草案の作成、問題点の整理と改善、最終稿の執筆を行う。
授業内容・方法	: 研究指導教員による個別指導。
授業計画	: 春学期：授業の進め方は研究指導教員により異なるが、概ね以下の段階を経て進める。 第1回 基本文献のレビュー 第2回 基本文献のレビュー 第3回 基本文献のレビュー 第4回 研究テーマの設定 第5回 研究テーマの設定 第6回 研究テーマの設定 第7回 研究計画の作成 第8回 研究計画の作成 第9回 研究計画の作成 第10回 データの収集・分析 第11回 データの収集・分析 第12回 データの収集・分析 第13回 最新の文献の研究 第14回 最新の文献の研究 第15回 最新の文献の研究 秋学期：授業の進め方は研究指導教員により異なるが、概ね以下の段階を経て進める。 第1回 草稿の作成 第2回 草稿の作成 第3回 草稿の作成 第4回 問題点の整理と改善 第5回 問題点の整理と改善 第6回 問題点の整理と改善 第7回 草稿の修正 第8回 草稿の修正 第9回 草稿の修正 第10回 修士論文または特定課題研究成果報告書の完成・提出 第11回 修士論文または特定課題研究成果報告書の完成・提出 第12回 修士論文または特定課題研究成果報告書の完成・提出 第13回 口頭試問 第14回 口頭試問 第15回 口頭試問
評価方法・基準	: 修士論文または特定課題研究成果報告書の内容および口頭試問の結果により評価する。
教材など	: 必要に応じ研究指導教員が指示する。
備考	: